

数字で見るダカールラリー

(2001年～2011年)

2001年 TOTAL DAKAR 2003 第23回パリ～ダカール

- スタートした参加台数は297台。(内訳: モト119台、オート142台、カミオン36台)
- ゴールできたのは141台、47% (内訳: モト76台、オート53台、カミオン12台)
 - 40歳以下の競技者が52%
 - フランス以外の国からの参加者が56%。(西欧40%、東欧5%、南北アメリカ4%、アジア3%)
 - アマチュア競技者 80%

主催者

- 飛行機17機、ヘリコプター8機、関係車両23台
- 飲料を含む食糧 150トン
- 競技者、関係者総計 1,100人

2002年 TOTAL DAKAR 2002 第24回アラス～マドリッド～ダカール

- スタートした参加台数は329台。(内訳: モト175台、オート119台、カミオン35台)
- ゴールできたのは132台、43% (内訳: モト58台、オート52台、カミオン22台)。
- 参加者は497人中フランス人が45%がフランス人、残りが34カ国からの参加者。
- 初めての参加者は30%、53%が18～40歳。

ロジスティック:

- 関係者総数1,320名
(内訳: 競技者837名、主催者85名、ジャーナリスト100名、TV関係者129名、メディカル関係者39名)
- 飛行機17機、
ヘリコプター8機、
ビバーク地架設診療所1棟

プレス関係:

- 雑誌、新聞記事3,462件、読者39,300万
- インターネットアクセス数880,000件、
- テレビ放映:ヨーロッパで135時間(フランス22時間含む)、
ユーロスポーツ30時間、
アジアで48時間45分(日本はBSi、名古屋テレビで1時間)、
アメリカ・ブラジルで43時間。

メディア関係の数字

フランス

- フランスTVで毎日3番組、全部で約22時間放映
- La Piste du Dakar(ダカールの軌跡)は1日平均190万人の視聴。2001年の39%から一段と増大。かつて50年前は今の半分。
- Le Journal du Dakar(ダカールニュース)1日平均3700万人の視聴。
- Passion Dakar(パリダカへの熱い思い)1日平均32万人。2001年から21%アップ。
ニュース番組には45分以上の放映、フランスTVでスポーツ番組の中で1時間30分。

ベルギー

- VTM/18時から毎日45分間パリダカスペシャルを放映、82万人の視聴者、平均42%
- STBF 19時30分から毎日パリダカのレジュメを放映。59万人の視聴者、平均35.5%

スペイン

■LA2/ 21 時 00 から毎日 20 分放映。59 万人の視聴者。

ポルトガル

■SIC/ 毎日 15 分の放映、スペシャル 2 時間。7 万人視聴。

イタリア

■毎日 30 分番組。90 分のスペシャルが 2 本。1500 万人の視聴登録者。

ハンガリー

■RTL KLUB で毎日 19 時からレジュメを放映。180 万人の視聴者

ポルトガル

■ TVN で毎日 15 分、パリダカスペシャルを 23 時から放映。79 万人。

ドイツ

■ARD 20 時からレジュメを毎日放映。700 万人の視聴者。

■ユーロスポーツ 22 時 30 分からパリダカスペシャルを毎日放映 16 万 8000 人の視聴者。

オランダ

■RTL5 17 時からパリダカのレジュメを毎日放映。11 万人。

インターネット

2002 年大会で www.dakar.com への開ページは 22050 万人で、2001 年に比べて 50% アップ、2000 年に比べて 140% アップ。

アクセス件数 88 万。

2003 年 Telefonica Dakar 2003 マルセイユ～チュニス～シャルム・エル・シイク

●スタートした競技車数:369 台。

(内訳: モト 184 台、オート 134 台、カミオン 51 台の合計 490 台+アシスタントカー 147 台、プレスカー 285 台)

●完走車:186 台 54,23%。(内訳: モト 98 台、オート 61 台、カミオン 27 台)

●競技者は 497 人 (45%がフランス人、残りが 38 カ国からの参加者)

●アマチュア 80%、プロ 20%

●初めての参加者は 41%、46%が 18~40 歳。40~49 才 42%、50~65 才 12%。

●ダカールラリーのビバーク地に 1500 人以上もの大会関係者:

—競技者 986 名

—主催者関係者 261 名

—プレス関係者 206 名

—航空関係者 87 名

●ビバークからビバークへ移動するのに、18 機の飛行機がローテーション稼働

—一日 30 便

—空輸利用者 320 名/一日 12 日間

—総飛行時間 535 時間

- コース上を飛び交う 10 機のヘリコプター
 - コースディレクター用ヘリコプター 2機
 - テレビ取材班用ヘリコプター 4機
 - 医療班ヘリコプター 3機
 - オフィシャルスチールカメラマン用ヘリコプター 1機
 - 総飛行時間 700時間

- ラリー中23台の車両が競技者をフォロー
 - チェックポイント(CP)用乗用車 9台
 - スタート地点用乗用車 1台
 - 医療班用乗用車 8台
 - テレビクルー用乗用車 5台

- 8台のトラックが参加者全員をアシスタンス
 - アトリエ車 2台
 - スタート地点用トラック 1台
 - ユーロマスター・トラック 2台
 - カミヨン・バレー 3台
 - 燃料運搬トラック 3台

フランス国内で記載された新聞・雑誌などの記事

新聞・雑誌などの記事 2,046 件
 コンタクト数 31,200 万件

フランス国内で放送された TV

- フランス TV 19 時間 (ダカールへの道、ダカール・ジャーナルなど)
- 視聴者数 5,600 万人

世界の TV 放送

- 放送された国 186 力国 (2002 年: 160 力国)
- 放送された番組数 73 チャンネル (2002 年 56 チャンネル)
- 放送時間 340 時間 (2002 年 286 時間)

インターネット

- アクセスページ数 3,300 万ページ (2002 年: 2,050 万ページ)
- アクセス数 100 万件 (2002 年 88 万件)

<2003 年大会の顔ぶれ>

エントリーした競技者の中で、過去優勝記録を持つ者

ドライバーとして参加する者 15 名、コ・ドライバーとして参加する者 5 名。

オート部門

- ステファン・ペテランセル(ミツビシ): モト部門で 1991 年,1992 年,1993 年,1995 年,1997 年,1998 年優勝
- アリ・ヴァタネン(ニッサン): オート部門で 1987 年,1989 年,1990 年,1991 年優勝
- ユタ・クラインシュミッツ(フォルクスワーゲン): オート部門で 2001 年優勝
- ジャンルイ・シュレッサー(シュレッサー・フォード・レイド): オート部門で 1999 年,2000 年優勝
- 篠塚建次郎(ニッサン): オート部門で 1997 年優勝
- 増岡 浩(ミツビシ): オート部門で 2002 年優勝
- エディ・オリオリ (ニッサン): モト部門で 1988 年、1990 年、1994 年、1996 年優勝
- ジャンピエール・フォントネイ(ミツビシ): オート部門で 1998 年優勝

モト部門 :

- ファブリッツイオ・メオーニ (KTM) : モト部門で 2001 年、2002 年優勝
- リシャール・サンク (KTM) : モト部門で 1999 年、2000 年優勝

カミオン部門

- ウラディミール・チャギン (Kamaz) : カミオン部門で 2002 年、2002 年優勝
- カレル・ロプライス(Tatra): カミオン部門で 1988 年、1994 年、1995 年、1998 年、1999 年、2001 年優勝
- ジャコモ・ヴィスマラ(Unimog) : カミオン部門で 1986 年優勝
- ヨハネスデロイ(DAF) : カミオン部門で 1987 年優勝
- ヨハン・ペーテル・レイフ(Man) : カミオン部門で 1997 年優勝

コ・ドライバー

- アンドレアス・シュルツ(ミツビシ) : 2001 年優勝 (ドライバー: クラインシュミッツ)
- ジル・ピッカー(ミツビシ) : 1998 年優勝 (ドライバー: フォントネイ)
- フィリップ・モネ(ニッサン) : 1992 年優勝 (ドライバー: オリオール)
1999 年優勝 (ドライバー: J. L. シュレッサー)
- パスカル・メモン(ニッサン) : 2002 年優勝 (ドライバー: 増岡)
- アンリ・マーニュ(ミツビシ) : 1997 年、2000 年(ドライバー: J.L.シュレッサー)

オート部門の主な参加チーム

●チーム三菱モーター・スポーツ :17 台

- 競技車 5 台 : 増岡、フォントネイ、ペテランセル、ピアシオン、スーサ
- 競技カミオン 2 台 : ボソネ、ギンブル
- アシスタント・カー4 台、アシスタント・カミオン 6 台

●チーム・シュレッサー・フォード :8 台

- 競技車 2 台 : シュレッサー、J.M.セルヴィア
- 競技カミオン 1 台 : ヴェルズイーノ
- アシスタント・カー2 台、アシスタント・カミオン 3 台

●チーム・ニッサン :19 台

- 競技車 5 台 : 篠塚建次郎、ヴァタネン、ドラベルニュ、アル・ムタイウエイ、ドヴィリエ
- 競技カミオン 3 台 : グロブラー、プティ、デュナン
- アシスタント・カー7 台、アシスタント・カミオン 4 台

●チーム・フォルクスワーゲン:12 台

- 競技車 3 台 : クラインシュミッツ、ヘンラールド、デッピング
- 競技カミオン 1 台 : ダラッツイ
- アシスタント・カー6 台、アシスタント・カミオン 2 台

●チーム・エクス・レイド:7 台

- 競技車 2 台 : ド・メヴィウス、アルファン
- 競技カミオン 1 台 : S.セルヴィア
- アシスタント・カー1 台、アシスタント・カミオン 3 台

●チーム・トヨタ・アラコ:7 台

- 競技車 3 台 : ラテ、浅賀、片山
- 競技カミオン 1 台 : ランベール
- アシスタント・カー2 台、アシスタント・カミオン 1 台

●チーム・ドスード:13台

- 競技車6台:ポール・ベルモンド、ペスカローロ、エランドネア、ウェイデ、ブルガン、ルーベ、
- 競技カミオン1台:ハメ
- アシスタント・カー3台、アシスタント・カミオン3台

●チーム・ラリーアート:13台

- 競技車8台:コールベルグ、モンテルデ、ガルメンディア、バルダ、コモルニッキ、ド・オリヴェリラ、A.メイヤー
- 競技カミオン1台:ベンベックティ
- アシスタント・カー3台、アシスタント・カミオン2台

●チーム・ニッサン・テクノスポーツ:8台

- 競技車4台:オリオリ、ウーズィオー、アंकティル、キス
- 競技カミオン1台:ペランコーニ
- アシスタント・カー1台、アシスタント・カミオン2台

●チーム・テレフォニカ・モヴィスター:2台 (グローワン・デヴロップモン)

- 競技車2台:ヴィラルバ、ジル

●チーム・グローワン・デヴロップモン:8台

- 競技車4台:ストルーゴ、モーリッツ、メッジ、ガッシュ
- 競技カミオン1台:ブロー
- アシスタント・カー1台、アシスタント・カミオン2台

●チーム・プロモテック:5台

- 競技車3台:ローラミア、メイヤー、ヴィラ
- アシスタント・カミオン2台

●チーム・E.パラッキオス:4台

- 競技車2台:アルカロンス、アルティミール・ヴィラ
- 競技カミオン1台:フランケサ
- アシスタント・カー1台

カミオン部門

●チーム・カマズ:5台

- 競技カミオン2台:チャギン、カビロフ
- アシスタント・カー1台、アシスタント・カミオン2台

●チーム・タトラ・マラソン:2台

- 競技カミオン1台:ロプライス
- アシスタント・カミオン1台

●チーム・スガワラ:3台

- 競技カミオン1台:菅原
- アシスタント・カー1台、アシスタント・カミオン1台

●チーム・デローイ:3台

- 競技カミオン2台:ヨハネスデロイ、ジェラルダス・デロイ
- アシスタント・カミオン2台

● チーム・ハンス・ベックス :1 台

- 競技カミオン 2 台 :ベックス

● チーム・オーバールック :3 台

- 競技カミオン 2 台 :ヴィスマラ、パンセーリ
- アシスタント・カミオン 2 台

モト部門の参加チーム

● チームKTM :20 台

- 競技カミオン 2 台 :レイフ、サルダウア
- アシスタント・カー6 台、アシスタント・カミオン 3 台
- KTMファクトリーチーム競技者 1 台 :デガヴァルド
- テレフォニカ・レプソル 競技者 3 台 : ローマ、エステフ、コーマ
- ゴーロワーズKTM 競技者 5 台 : メオーニ、コックス、サンクト、サラ、デスプル

モト部門からオート部門に移ったダカールラリーの競技者

- エディ・オリオリ (ニッサン No.277) 元 4 回の優勝者
- アンドレア・メイヤー (ミツビシ No.236)
- ジョディ・アルカロンス (BMW No.237)
- エリザベット・ジャキント (メルセデス No.429)
- クリスチャン・ラヴィエイユ (Buggy Honda No.214) 元エンデューロ世界チャンピオン

女性エントラント

-ユタ・クラインシュミッツ & ファブリッツィア・ポンス No.203 (ドライバー、コ・ドライバーが共に女性チームはこのチームだけ)

- ティナ・ソーナー No.204(オート部門 コ・ドライバー)
- イザベル・パティシエ No.272 (オート部門 ドライバー)
- エリザベット・ジャキント No.429 (カミオン部門 ドライバー)
- アンドレア・メイヤー No.236 (オート部門 ドライバー)
- シンディエリー・ウェイデ No.277 (オート部門 ドライバー)
- イザベル・ヴァドボンクール No.No.319 (オート部門 コ・ドライバー)
- パッツィ・クイック No.100 (モト部門 ライダー)
- エロディ・メッチ No.226 (オート部門・コ・ドライバー)
- アストリッド・ビッシュグラン No.157 (モト部門)

今大会参加の世界的なアスレチスト

- イザベル・パティシエ No.272 (クライミング元世界チャンピオン)
- スティーヴ・ラヴッサン No.272(ウインドサーフィン)
- リュック・アルファン NO.221 (アルペン・スキー元世界チャンピオン)
- ポール・ベルモンド No.241 (F1)
- ジャンマリー・ファッフ No.433 (サッカー)
- フィリップ・モネ No.218 (ヨット元世界チャンピオン)
- 片山右京 No.243 (F1)
- グレゴワール・ド・メヴィウス No.205 (WRC元世界チャンピオン)
- ミキ・ピアッシオン No.207 (WRC元世界チャンピオン)
- フィリップ・ガッシュ No.256 (サーキット)

その他

参加者の最年少、最長老

オート部門 最年少：ニコラ・ミッスリン (No.233) 1982年7月25日生まれ 20歳

最長老：アロワ・ハリンゲル 72歳

モト部門 最年少：グレゴリー・ラメル (No.42) 1980年8月16日生まれ 22歳

最長老：ゲラルド・バルベザン (No. 55) 1946年6月14日生まれ 56歳

オート部門 最年少：ナンドール・ファルカス (No.432) 1980年7月17日 22歳

最長老：テッリー・ハリーマン (No.428) 1938年9月26日 64歳

その他セレブ

- サンディエリー・ワダ (No.277) セネガル大統領の娘
- アルフォンソ・CD. オルレアン・バーボン (No.257) スペイン国王の甥
- ブリジット・ニールセン (ラウール・メイエールのニッサン・パトロール、アシスタントカー) 元シルベスタローン夫人
- ポール・ベルモンド (No.241) フランスの俳優 ジャンポール・ベルモンドの息子

2004年 Telefonica Dakar 第26回大会 クレルモンフェラン～ダカール

● スタートした競技台数 410台

(内訳：モト 205台(クワッド 10台)、オート 142台、カミオン 63台 +アシスタントカー 95台、プレスカー 21台)

● 完走者 163台 39%

(内訳：モト 65台、オート 60台、カミオン 38台)

● 競技者の国籍 40カ国

● プロ・アマの比率：80%がアマチュア、20%がプロ競技者

● リピーター参加の多い大会。初参加は全体の30%

● 競技者を年齢別にみると

18-29歳	: 6%
30-39歳	: 32%
40-49歳	: 44%
50-65歳	: 18%

ロジスティック

●ビバークした人数 総数 1,845人

-競技者 1,250名

-主催者関係者 280名

-ジャーナリスト、メディア関係者 220名

-パイロットや乗組員(飛行機、ヘリコプターなど) 95名

●ビバーク地から次のビバーク地へ関係者を運ぶ19機の飛行機

- 1日30便 & 輸送者340人、操業日数14日間

- 総計580時間の飛行。

●コースをサポートする9台のヘリコプター

- コースディレクター用ヘリコプター 2機

- TV用ヘリコプター 4機

- 医療班用ヘリコプター2機

- 写真用ヘリコプター1機

- 総計70時間のフライト

●ラリーをカバーする25台の車両

- CP用オフィシャルカー 9台

- SSスタート用オフィシャルカー 1台

- 医療班用 10台

- TV用 10台

●**競技者になくてはならないサポートカミヨン**

- アトリエカー 2 台
- SSスタート用 1 台
- ユーロマスター用 2 台
- カミヨンバレー 3 台
- 燃料用 3 台

●**その他...**

- 食糧 100 トン
- 飲料水 10 万リットル
- レストランで出される 5 万食。その内 60%が現地調達

2005 年 Telefonica Dakar 2005 第 27 回バルセロナ～ダカール

●**エントリーした競技車台数 464 台、アシスタントカー／カミヨン 224 台**

(内訳: モト 230 台、オート 165 台、カミヨン 69 台の合計 464 台 + アシスタントカー 224 台、プレスカー 34 台)

●**完走車: 215 台 54.23%。(内訳: モト 104 台、オート 75 台、カミヨン 36 台)**

ロジスティック

●**ビバークした人数 総数 1,845 人**

- 全競技者数 1,463 人
- 競技者の国籍 39 カ国
- プロ・アマの比率 : アマチュア 80% プロフェッショナル 20%
- 初参加は全体の 30%
- 年齢別比率

18-29 歳	: 7.3%
30-39 歳	: 33.5%
40-49 歳	: 43.3%
50-65 歳	: 14.6%

●**ビバーク地には 2200 人ものが!**

- 競技者数 : 1,465 名
- 主催者関係者 : 385 名
- ジャーナリスト : 250 名
- 飛行機のパイロット他、エア関係者 100 名

●**ビバーク地から次のビバーク地へ関係者を運ぶ 19 機の飛行機**

- 1 日 30 便 & 340 名を輸送
- 総計 580 時間のフライト

●**コースをサポートする 8 機のヘリコプター**

- コースディレクター用ヘリコプター 1 機
- TV 用ヘリコプター 4 機
- 医療班用ヘリコプター 2 機
- 写真用ヘリコプター 1 機
- 総計 70 時間のフライト

●**ラリーをカバーする 27 台の車両**

- CP 用オフィシャル・カー 9 台
- コースオープン用 オフィシャルカー 2 台
- 医療班用 10 台
- TV 用 6 台

●競技者になくてはならないサポートカミオン 11 台

- アトリエカー 2 台
- SSスタート用 1 台
- ユーロマスター用 2 台
- カミオンバレー 3 台
- 燃料用 3 台

メディア

- 放送された国 187 カ国
- 放送されたチャンネル 84 チャンネル
- 放送された時間 総計 563 時間 (2004 年大会では 400 時間で、前年度比 30%アップ)

2006 年 第28回 リスボン～ダカール

●エントリーした競技車台数 475 台、アシスタントカー／カミオン 238 台

(内訳: モト 231 台+サイドカー 1 台、オート 174 台、カミオン 69 台+アシスタントカー 109 台・カミオン 129 台)

●完走車:190 台 54,23%。(内訳: モト 93 台、オート 64 台、カミオン 33 台)

- 完走率 モト 40%、オート 39%、カミオン 48%

● プロとアマチュアの割合、プロ 20%、アマチュア 80%

● 初参加 モト 40%、オート 20%

● 参加者の国籍 42 カ国 全体の 70%が海外からの参加、30%がフランス人

●ビバーク地に 232 名競技者、アシスタント関係者 760 名

- 女性競技者 23 名

ダカールラリー2006年大会のメディア

- スタートとゴールで取材にあたったメディア関係者 : 550名、300媒体
- 大会に同行したメディア関係者 (新聞・雑誌・ラジオ・写真家など) 140 名
- 大会に同行したテレビ関係者 210 名
- 毎日 ASO テレビクルーが世界に向けて発信したテレビ放映時間 : 26 分
- 178 カ国で 580 時間の TV 放映、予六派で 1 億 5000 万人を超える視聴者。

ダカールラリー2006 年とインターネット

- 1ヶ月間にアクセスしたページ数 : 4,000 万頁
- 英・仏・スペイン・ポルトガルの 4ヶ国語のホームページにアクセスした件数 : 230 万件

ケータリング

- 食事輸送車 11 台 (オート 9 台、カミオン 2 台)
- 食膳係り 72 名 (サービス係り 50 名、コック 22 名)
- 一日消費ドリンク 50cl 瓶 12,00 本/日
- 一日消費食材 1,5トン (70%をアフリカの現地調達)

メディカル

- メディカルスタッフ 全部で 50 名。
 - 医療用ヘリコプターに 6 名、
 - 医療専用車に 20 名、
 - ビバーク地に 20 名、
 - 他コーディネイターなど 4 名

燃料

- 600 000 リットル : 飛行機用 Jet A1
- 250 000 リットル: オート用アブガズ
- 500 000 リットル : ガソリンスタンドで購入した軽油
- 140 000 リットル : ヘリコプター用燃料

2007年 第29回 リスボン～ダカール

●エントリーした競技車台数 505 台、
(内訳: モト 245 台、オート 180 台、カミヨン 80 台) (2007年6月の記者発表の数字による)

●完走車:300 台 60.6%。(内訳: モト 132 台、オート 109 台、カミヨン 59 台)

- 1979年パリ～ダカールラリーが始まって以来、大会に参加した競技者は男女併せて13,600人。
- 過去29回の全大会で通過したアフリカの国は21カ国。
- 女性出場者 25名 (2006年は23名)
- 初参加: モト40%、オート20%。
- 競技者の国籍:フランス以外の国籍70%(354名)、フランス人30%。43カ国から参加。
- 2007年大会でポルトガルの応援に集まった観衆は100万人。

●メディア陣

- ポルトガルのスタート地で取材したメディア関係者(新聞・雑誌・ラジオ・写真家)は480名、
- ダカールのゴールを取材したメディアは300名。
- ダカールラリーと共に移動して各地で取材したメディア関係者は166名。
- 取材したTV関係者(番組制作、ニュース関係)は200名以上。
- ASO(シエラ)テレビチームが取材し、世界に発信したダイジェスト版映像は、毎日26分。
- ダカールラリー関係番組が185カ国で放映、全部で634時間。ヨーロッパでの視聴者数は1,500万人を越えた。
- ヨーロッパ(フランス・ドイツ・スペイン・イタリア・イギリス、ユーロスポーツ)でダカールラリー2007を見た延べ人数は10億人。

●インターネット

www.dakar.com はフランス語、英語、スペイン語、ポルトガル語で記載、アクセス数は160万件、ページ数にして4400万。

2008年 第30回 リスボン～ダカール

大会キャンセル

2009年 第31回 ブエノス・アイレス～ブエノス・アイレス

●エントリーした競技車台数 500 台、
(内訳: モト217 台、クワッド 25 台、 オート177 台、カミヨン 81 台)

●完走車:271 台 54.2%。(内訳: モト 113 台、クワッド 13 台、オート 91 台、カミヨン 54 台)

- アルゼンチンのコースサイドで応援した人は約300万人、チリの4ステージのコースサイドに集まった応援の人は約60万人。この観衆のうちアルゼンチンで61%、チリで66%が、モータースポーツファンだった。インタビューを受けた両国の95%(注1)以上の国民が、ダカール・ラリーの開催を歓迎した。

注1:ブエノスアイレス、メンドサ、ヴァルポライソに集まった観衆1252人のインタビューによる数字。

●現地への経済効果は5,750万ユーロ(=約75億円)。

●メディア陣

- ポルトガルのスタート地で取材したメディア関係者(新聞・雑誌・ラジオ・写真家)は 480 名、
- ダカールのゴールを取材したメディアは 300 名。
- ダカールラリーと共に移動して各地で取材したメディア関係者は 166 名。
- 取材した TV 関係者(番組制作、ニュース関係)は 200 名以上。
- ASO(シエラ)テレビチームが取材し、世界に発信したダイジェスト版映像は、毎日 26 分。
- ダカールラリー関係番組が 187 カ国で放映、全部で 1,130 時間。そのうち特集番組が焼く 1,000 時間近く。ニュース、特特集番組含め、ダカール・ラリー2009 の視聴者数は全世界で 22 億人に上った。
- アンケート調査で、ダカール・ラリーを 2 億 9,600 万人が TV などで観戦した。中でもブラジルでは 1 億 3,000 万人、アメリカでは 5,400 万人とダントツの数字。

●インターネット

www.dakar.com はフランス語、英語、スペイン語、ポルトガル語で記載、アクセス数は 160 万件、ページ数にして 4400 万。

2010 年 第32回 ブエノス・アイレス～ブエノス・アイレス

●エントリーした競技車台数 362 台、

(内訳: モト 151 台、クワッド 25 台、オート 134 台、カミヨン 52 台)

●完走車:187 台 52%。(内訳: モト 88 台、クワッド 14 台、オート 57 台、カミヨン 28 台)

●参加者の国籍 40 カ国、

- アルゼンチンでの直接・間接的経済効果は 27 億 9,500 万 US\$ (アルゼンチン政府発表)
観光客プロモーションとしての効果は 44,800 万 US\$。
- アルゼンチンでのスタート、ゴール、コース上の観衆 340 万人。
- ダカールラリー関係番組が 190 カ国、70 チャンネルで放映、のべ 1200 時間。

2011 年 第33回 ブエノス・アイレス～ブエノス・アイレス

●エントリー競技車台数 438 台

(内訳: モト 183 台、クワッド 33 台、オート 146 台、カミヨン 68 台)

●完走車:204 台 46.6%。(内訳: モト 94 台、クワッド 14 台、オート 55 台、カミヨン 41 台)

●参加者の国籍 51 カ国、女性競技者 13 名、

●初参加者数 モト 64 名、クワッド 21 名、オート 50 台、カミヨン 1 台

●最年少 モト部門のロドリゴ・アンドレス・カバレロ・アルカヤガ (Rodrigo Andrés Caballero Alcayaga) 20 歳

●最高齢 日本人菅原義正、69 歳。連続参加 28 回で大会記録を持つ。

●オーストラリアからの DAKAR 2011 への参加者

モト: Mark Davidson, Simon Harslett, Simon Pavey, Andrew Scott, Jacob Smith, Warren Strange

オート: Bruce Garland - Hiroaki Suzuki (Jap), Geoffrey Olholm - Steve Riley

ドスードからの DAKAR 2011 への参加者

モト

ピエリック・ボネ (Pierrick Bonnet) (仏), KTM 660

オート

クリスチャン・ラヴィエイユ (Christian Lavieille) 仏 - ジャンミッシェル・ポラト (Jean-Michel Polato) 仏, プロトタイプ Dessoude N05 (T1)

イザベル・パティシエ (Isabelle Patissier) (アンツレ) と ティエリー・デリゾッティ (Thierry Delli-Zotti) (仏), 2 輪駆動バギー (T1)

フレデリック・シャヴィニー (Frédéric Chavigny) (仏・ウクライナ) - ウィリー・アルカラズ (Willy Alcaraz) (仏), 日産テラノ (T2)

カルロス・オリヴェイラ (Carlos Oliveira) (英) - リカルド・コルティカダス (Ricardo Corticadas) (ポルトガル), ピックアップ N03 (T1)

オンズィ・グオ (Hongzhi Guo) (中) - デニス・シュルジエー (Denis Schurger) (仏), 日産テラノ (T1)

ダヴィッド・デランド (David Deslandes) (仏) - XXXX, 日産テラノ (T2)

カミヨン

サルバドール・セルヴィア (Salvador Servia) (スペイン) - ハイメ・プイグ (Jaime Puig) (スペイン) - ヴァンサン・デブニイ (Vincent Debeugny) (仏), メルセデス 6X6 (T4)

2012 年 第34回 ブエノス・アイレス～リマ